

中央情報通信

発行日 毎月15日

大日本生産党機関紙

第1372号 令和2年8月15日

8 月 号

	哀悼 李登輝元総統……………	本紙編集部 ……	1
	実は韓国人の大半が困っている国内反日運動……………		2
寄稿	コロナにも有効らしい十種香の力……………	「兵庫通信」代表 村上 学……………	3
	「自民党隷米派」の醜態……………		4
読者投稿	ALS安楽死について考える……………		5
	本部・地方本部活動報告……………		5

本 社 〒157-0065 東京都世田谷区上祖師谷5丁目8-9 ハイムマツエ 101
電話・FAX (03)5384-5450 (4月12日より移転しました)
賛助購読料 年額 3,000円 (年10回発行)
ホームページ <http://大日本生産党.com/>

発行所
中央情報通信社
主幹・編集長/谷田 透

哀悼 李登輝元総統

本紙編集部

アジアの巨星が消えた。

李登輝の残した足跡は大きく、また波乱に満ちていた。大日本帝国台湾省に生まれ、京都大学に学び、日本陸軍少尉で終戦を迎えた。その後台湾は文字通り波乱万丈の運命を辿り、日本が連合国に対して台湾領有権を放棄した状況でアメリカ軍が預かり管理する体制になった。

終戦直後から、ソ連と中国が世界共産党コミンテルンの遠大な理想に向けて、世界各国で同時革命を起こさせて世界を混乱と破壊に導こうとした。徹底的に破壊してから、共産主義国家を建設するというのが彼らの言い分だったが、それに連動して中国大陸では中華民国国民党と中国共産党が内戦に突入し、朝鮮半島では南北分裂戦争が始まった。

腐敗墮落の蒋介石国民党は、日本軍から麻薬のノウハウを奪い取り生産地の満州を支配し、世界一の麻薬と売春で王国を築こうとしていた。その内部腐敗の弱点を衝いた毛沢東共産党によって各地で奇襲攻撃を受けた中華民国政府は、大陸から追い出される。這々の態で乞食のような国民党残党勢力とお抱えの売春婦を引き連れ、蒋介石が北京故宮から奪い取った財宝を貨物船に満載して、台湾へ政治亡命を願ひ出たのである。

日本が領有権放棄した台湾島を管理していたアメリカ軍は、朝鮮戦争の忙しさの渦中に蒋介石ごときの相手をしていられないため、「今後は反日を政策からはずし、反共を政策の中心とする」という条件つきで、台北市内の一部に「中華民国亡命政府」の開設を認めた。

ここで重要なことは、蒋介石の中華民国政府も国民党も「大陸の中国人」だという事実である。間違っても彼らを台湾人とは呼ばないのだ。当の台湾人にしてみれば、乞食同然で逃げてきた中国人が、台北で「中国政府」という看板を出すこと自体が許せないのに、蒋介石が「アメリカの許可を得たから」という理由で各種の法律や条例を制定すると言い出したため、我慢は限界に達した。

台湾人は、台北市内の中華民国亡命政府は出てゆけ！と大規模なデモを開始したが、蒋介石は国民党軍に無差別発砲許可を出し、大勢の台湾人を虐殺した（二・二八事件など）。読者諸兄は、これが第二次大戦終結後の出来事だということをお忘れしないで欲しい。

アメリカは朝鮮戦争で手一杯で、蒋介石を処罰する暇もないままに放置していた。「中華民国に反対する台湾人は共産主義者と見做して射殺する」という命令を公布した蒋介石という中国人は、銃口によって台湾人を黙らせたのである。

そんな時代に李登輝は台湾へ戻る。日本のスパイと疑われたら最後、国民党軍に逮捕・虐殺される危険がある中で、あえて「台湾を元の台湾に戻そう」と命を懸ける覚悟を決めたのである。李登輝は台湾へ戻って国民党に入党し、内部で頂点に上り詰めてから国民党を解体しようとして臥薪嘗胆、四十年間を馴染みのない北京語を話しながら生きてきたのである。

蒋介石は台湾において、標準語を北京語に制定し、台湾語は方言用すれば直ちに懲戒免職の上、逮捕投獄した。

蒋介石は死ぬまで台湾に戒厳令を発令したままで、後継者の蔣経国は日本の皇室に助けを求め続けていたが、それは「いずれ大陸反攻して中国共産党を壊滅させる。そして中華民国は北京に政府を開設し、国民党が中国を支配する」という夢物語だった。蔣経国は死の直前まで「私は台湾島なんかには葬られたくない」と言い続けたそうだ。

蒋介石一族の弾圧と支配はようやく終焉に近づき、李登輝は自分の政治信念をやっと口に出ることが出来るようになった。「私は台湾人だ」という李登輝の宣言が、いかに大きく強い響きを持っていったかは、今でも台湾の老人たちは感動しながら話してくれる。

半分寝ぼけている日本人は、台湾が中国の一部だという中共の主張を否定することを避ける



傾向にある。中共は習近平平の「清朝時代の最大領土と主権こそ中国共産党が継承すべきものである」という宣言を発表しているが、このような超ふざけた思想を誰が認めると言うのか。

台湾島は、日清戦争で敗北した清朝が「台湾島は琉球列島の延長の島だから、日本に割譲します」と円満に正式に領有権が移ったものだ。それ以後の五十年間は日本人と台湾人の共同作業によって、日本内地と変わらないほどの見違える新天地になったのである。台湾島の十六部族の原住民も、福建から渡ってきた中国人も、琉球から渡ってきた日本人も、

実は韓国人の大半が困っている国内反日運動

韓国では地域や世代によって大きく差があるが、一般的に言えることは「反日派は少数派」ということだ。本音では、日本も日本人も余り好きではないということだが、明確に「反日」というほどの嫌悪感を持っている人は実は少ない。これは日本人でも同様で、韓国も韓国人も余り好きでないが、反対運動をするほど嫌いな訳ではないのである。

ところが、両国ともに反対運動を主体的に続けている人の大半は、国交断絶に近づけることが目的だと語る。この目的は、第三国を有利にするために煽動されている国民世論誘導で、政治的にも教育的にもアンチ主義者を増加させることを運動目標としている。

日韓離反というのは、北朝鮮金日成が最初に命令した運動で、両国ともにアメリカの属国だから、「まずアメリカに日韓調整できないほど困らせて、アメリカが手を焼いて一歩下がった処へ北朝鮮が乗り込み三国を統一する」という筋書きだった。日韓は北朝鮮と正式国交がないのを逆手にとって、両国内にアンチ主義者を作るための資金と人材を、在日朝鮮総連と朝鮮商工会に任せていた。まだ在日社会に韓徳銖や文東建などの超大物が居た頃の話である。

しかし、日本・韓国・北朝鮮ともに人材が小粒になってリーダーが不在となり、政治トップ自身が指導力も責任感も極めて薄くなり、国民の生活水準は上がっても民度は下がりが続けた。北朝鮮が二代目に交代してからは、

みな仲良く平等に暮らすために、バラバラだった言語を日本語で統一し、日本式の学校、病院、役所などを作って移民も受け入れ、清朝時代に「首狩り族と伝染病の島」と恐れられた台湾島は、一転樂園島に変わったのである。

素晴らしかった日本時代、恐怖の蒋介石時代、波乱の国民党体制時代、それらを一貫して渦の真っ只中で生きてきた李登輝は、世界一の親日家であり日本人に苦言を呈してくる先輩だった。大柄でしゃくれ顎でいつも笑顔のおじいさんは、日本と台湾の美しい連帯と発展を夢見ながら、天国へ行かれたことだろう。改めてご冥福をお祈り申し上げる。

日本人拉致、韓国人拉致を国家政策として実行し、韓国には「挺身隊問題対策協議会（挺対協）」などの反日運動組織を作らせて、日本を叩くために慰安婦問題を材料にして、日本ではそれに対するリアクションを愛国心だと強調するエセ右翼団体を作った。金正日が絶好調の頃である。

ところが北朝鮮が三代目に交代し、二代目時代の日韓の団体に提供する資金は廃止された。すると今度は団体側が生き残りを賭けて、当初目的と方針を同じくする中国共産党に身売りすることで資金を得ようと画策した。中共統一戦線部としては労せずして日韓相互敵対運動団体が手に入るわけであり、安い買い物と大喜びしている。

韓国の挺対協は、在日韓国人や、それと意志を通じた日本人政治運動家と反日運動に明け暮れ、寄付金や恐喝金で裕福になってきた。そこで組織内対立が発生し、資金横領も発生し、団体は「日本軍性奴隷制問題解決のための正義記憶連帯」（正義連）という意味不明の新組織に衣替えして、世界中に「慰安婦少女像」を作り続けて反日を煽ることを運動としたのである。

この慰安婦少女像のモデルは、実は慰安婦にされた少女ではなく、朝鮮戦争中にアメリカ軍のジープに轢き逃げされて死亡した二人の少女の「可愛い方」だけがピックアップされたものなのだ。二人の写真は現存しており、気の毒だがモデルとして採用されなかった少

女の方は「平家蟹」のような顔をしている。この銅像の発注者も制作者も秘密にしているが、モデルの少女のことは韓国マスコミ界で知らぬ人はいない。

正義連という団体は、集めた寄付金などを旧慰安婦の老婆たちに分配すると言いつながら、命令どおりに記者会見しない老婆には配給せず、逆に「お前が日本軍の慰安婦だったと嘘をついていることを世間に公表して潰してやる」と脅し、老婆たちを管理していた。

この団体のトップは、尹美香というチュチェ研究会の地下組織にいた極左で、文在寅政権と極めて素性が似ている人物である。だから韓国検察庁が資金横領や背任容疑で取り調べをした時にも、「正義連の疑惑を公表したら、やがて青瓦台に飛び火するぞ」と、尹美香は青瓦台大統領府の補佐官を脅したと言われている。脅された補佐



官は震え上がり、尹美香を選挙に出馬させて国会議員にしてみました。当面の逮捕も青瓦台への疑惑も無くなると考えて、先日の総選挙に立候補させて強引に当選させた。国民世

論調査では七〇%以上が尹美香の立候補に反対していたのだが、政権側の力技の政治工作によって、彼女を国会議員にしまったのである。

今期中に「高位公職者犯罪捜査処理法」が制定される見込みで、尹美香は一切の捜査を

受けることもなくなり、青瓦台は捜査機関が全く手出し出来ない聖域になってしまふ。

元はと言えば、韓国国内での反日運動団体の金儲けと主導権争いに端を発する見苦しい左翼の内輪揉めだったのだが、それが発展して今回の「青瓦台独裁国家」に突き進む道を開いてしまったのである。

韓国的一般国民は「反日でなければならぬ。運動団体に疑惑を持つてはならない。政治家は何をしても許される」という歪んだ社会で生きてゆかねばならなくなる。最近では平昌にある森林公園に正義連が慰安婦少女像に土下座する安倍首相像を設置し（写真）、深刻な国際問題に発展するというので政府は青くなっているが、左翼たちは青瓦台幹部を含めて大喜びしている。下品で低俗な反日戦術ほど国民世論と日本政府が反応するのが早いそう、自分と同じ路線が繰り返されるだろう。そのツケは、全部韓国国民に返ってくることになり、最終的には日韓関係は修復不能となり、北朝鮮と中共は勞せずして日韓離反を実現できることになる。

韓国国内だけの反日運動だったものが、いつの間にか国際問題に発展してしまふ。韓国社会が黙認し続けた結果が、ブーメラン効果で韓国人を「世界の孤児」に追いやってしまふ。

これを一笑に付すことなく「他山の石」として、我々も学んでおくべきだろう。

寄稿

「コロナにも有効らしい」「十種香」の力

「兵庫通信」代表 村上 学

今では中身は随分変化しているが、奈良時代の頃から死者の弔いには十種香が焚かれていた。筆者は十種香の中身を知らないが、僧侶たちは香木や薬草をブレンドして古来からの専門店が作っているものだと教えてくれる。

記録では、疫病などが流行して大勢の死者が出る、火葬が間に合えばいいが、土葬で葬るしかない状況であれば、腐敗だけでなく疫病の感染が最も心配された。疫病の死者を扱う人はエタやヒニンにも感染者があったそうで、特に引導を渡す坊主に感染者が出る事

を皆が恐れていた。

そこで考えられたのが「香」による感染防止である。疫病の細菌やウイルスに有効な香木や薬草が試され、十種類の香や薬草のブレンドが最もよく効くとされた。呉の国の福建から渡ってきた技術者の多くが、先住民の山の人たちと協力してブレンドをしたそうだが、朝廷からの指示で南都の大寺院がスポンサーとなり、疫病の死者に触れても感染しないほど強力な



殺菌作用を持つ十種香が誕生したのだそうだ。昔の日本では、医者とは病氣の見立てをする人で、病気を治すのは薬屋の仕事。医者から患者の容態を聞いて薬草などをブレンドして作る薬だけが頼りだった。永く医者も薬屋もエタ身分とされていたので、なおさら秘密の技術が確立したようだ。

「自民党隷米派」の醜態

事もあろうに「米大統領選に歩調を合わせろ」と言い出す情けなさ

十一月のアメリカ大統領選挙は、現職共和党のトランプと民主党のバイデンの戦いとなる見込みだが、それに合わせて衆議院を解散して総選挙をしたらどうかと言いつ出した自民党のアメリカ隷属派（隷米派）議員が複数いるそうだ。

アメリカ隷属を批判するレベルの話ではなく、自民党の生き残り戦略をトランプ大統領選に賭けている愚かしさは悲しむべき現象である。

バイデンが民主党内のサンダースグループである民主社会主義者たちと政策協定を結んだことに嘔み付いているトランプ陣営だが、表面的に「トランプは右派で保守的」「バイデンは左派で革新的」という作り上げた二者択一の虚像を確定させたいだけの、解りやすい茶番である。その茶番に真剣につきあって、自民党の命運を預けようと言うのだから、程度の低い新喜劇のようなものだ。

よく考えて欲しいのは、トランプもバイデンも白人優越でなければ生きて行けない立場であり、大金持ちの銭ゲバで買収も平気だという素性である。アメリカを右の国にするのか左の国にするのかという重大局面ではなく、オバマ時代の旧ネオコン勢力や国際人権マフィアなどの利権を叩き潰して「役者入替」を推進中のトランプと、旧勢力を復活させて国連中心をアピールして「配役復帰」の約束手形をばら撒いているバイデンとの、プロデューサー戦争なのである。

トランプが自国第一主義を主張することに日本や韓国は怯えているなどと言う人が居るが、自国第一は当たり前前のことで、同盟国を

この十種香を部屋に焚きこめて充満させれば、疫病の感染は防げたというのである。科学的根拠などは不明だが、実際に奈良時代の頃から坊主の世界では言い伝えられているという。この十種香の謎を解明し、コロナウイルスの弱体化に効果があるかどうか分析してくれる研究所があれば面白いと思うのだが。

第二とするのか、第一以外は全て搾取対象とするのかと議論されていないことが、辛うじてアメリカ議会の成熟ぶりを表わしていると言える。あたかも見苦しい女が（男でもよいが）男に対して（女でもよいが）「もう愛してないの？」と泣き叫んでいる絵に見えてくるほど、日本や韓国の政界は浅ましいようだ。



元はアメリカインディアンの聖地だったラッシュモア山

一七七六年にアメリカが独立したのは、イギリスの支配と搾取を排除しようとボストンに集結した連中が、同じようにヨーロッパから追放されたり喰いつめたりした連中と団結して独立を勝ち取り、先住民や以前から移住していたヨーロッパ人から土地と権利を買い取つてゆき、反対者は騙したり殺したりしながら合衆国として巨大な連合国家を作り上げてきた結果である。切り取り御免というヤクザの世界がアメリカ開拓史なのであり、その原点に戻ることを大統領は宣誓するのである。その国こそがアメリカなのだ、我々は肝に銘じるべきである。日本が神武紀元の原点に戻る儀式など政権は決して行なった事は無い。天皇の血族性の部分と政治性の部分は分けて考えるべきであり、神武建国を政治体制の原初とするのが日本政府の建前でなければならぬはずだが、そんなことを考える政治家が居るはずもない。だからこそ、アメリカ大統領が就任式で建国の原点に戻る話の意味が解らないのである。

現在の自民党では「安倍か、それ以外か」というローランド現象が起きている。つまり安倍しかないという処から話は始まり、安倍が首相を交代する時には「それだけでも国

民の信を問うに足りる問題だ」と言う安倍政権隷属議員たちが解散総選挙のアドバルーンを上げている。

野党は全部が合体したとしても「自民党か、それ以外か」という、こちらもローランド現象となっている中では、安倍政権のバラサイトとなつている議員たちの思惑は無下にできない力がある。そのバラサイトでさえ安倍以後の自民党の運命を不安一杯で見つめており、それならばアメリカの殿様の選挙に合わせて日本でも：と考えても不思議ではない。

中共に対する日本社会と国民の怒りは爆発する手前にあり、反中共感情は日増しに強く

読者寄稿

ALS安楽死について考える

ALS(筋萎縮性側索硬化症)の女性が安楽死を選んだ問題は、「優生思想」という価値観に基づくのではないかと言う左派や人権派からの指摘で、大きく世論を巻き込んだ論争に発展している。

筆者は友人二人をALSで亡くしているの
で、この病気には少々詳しい。これは遺伝性の染色体異常で、主に四十歳以降の男性が発症する。後五年ほどで、山中博士のiPS治療で完治が見込まれているが、現状では不治の病であり発症すれば必ず数年以内に死ぬ。

友人の一人は四十歳で発症し、当初は病院で診察してもらっても腰の痛みの原因は分からず、不要なヘルニア手術を二回も受けた。やがて手の指が曲がり、足が動かなくなり、その時点になってALSだと判明した。車椅子生活を数年してから、筋肉麻痺が上半身へ移り、呼吸と心臓が止まるのは時間の問題になった。彼はそれでも、発症してから五年以上明るく生きた。もう一人の友人は七十歳で発症し、最初は自転車で転ぶことが増え、やがて歩いていても転ぶようになり、病院でALSを宣告された。一年間は普通に話せていたが、やがて何を話しているのか分からなくなり、しばらくして心筋が麻痺して亡くなった。

どこの筋肉から麻痺が始まるかは予測できず、運悪く上半身や首から麻痺が始まると死ぬのが早い。逆に足先から麻痺が始まると、毎日少しずつ全身に麻痺が広がるのをやるせない気持ちでじっと我慢し続けて余生を送ることになる。それは耐え難いものだと思像できる。毎日、

なっている。ロシアは様子見で日本と遊んでくれなくなっており、プーチンが安倍を格別
に大事にしていた頃に外交で対露戦略を失敗
し続けたツケが回っている。だから大半の政
治家は慌てて、アメリカとの同盟関係を強化
しなければ日本は生き残れないかも知れない
と言いつつ始めているのである。

隷米派の自民党議員たちは、知人の政治運
動をしている人たちに十一月解散総選挙とい
う観測気球を上げて、仲間たちと情報交換を
続けているそうだが、アメリカ大統領選挙が
衆議院解散の理由になるなどという呆れた発
想は、お世辞にも評価できる代物ではない。

指が一本ずつ曲がらなくなるのを、どのような
精神状態で過ごせようのか。

今回の京都の女性が安楽死を選びたかったの
は、そんな自分の肉体と精神が崩壊してゆくの
を平然と見送ることが出来なかったからだろ
う。察するに余りある。

睡眠薬を点滴に入れて安楽死させた医師が何
を信条としていたかは知らないが、ALSが患
者の精神を削るように弱らせてゆく病気だと理
解した上で考えたい。

この患者女性が安楽死を望んだ背景に、常人
では耐え難い絶望感があったことは忘れてはな
らない。医者に「優生思想価値観」があったか
どうかと、患者が絶望の中で余生を送るとい
う悲劇を、同じページの物語として読んでなら
ない。他人の不幸を「人権商売」の飯のタネと
考える連中に、我々自身が引きずられてはいな
いだろうか。

我々が語るべきは、患者の肉体と精神の救済
をどうすればいいのかという話なのである。

本部・地方本部活動報告

■本部・関東本部

◇七月二十六日(日)

・午後二時半より、党祖内田良平先生の命日に鑑
み、内藤幹事長、山田関東本部副本部長が東京・
府中市多磨霊園へ墓参。

■関西本部

◇七月十七日(金)

・午後六時半より、尼崎市内において「むすびの
集い」勉強会。党員、有志計五名参加。テーマは「コ
ロナとスペイン風邪」。